

受入団体名:衣笠キャンパス地域連携課

募集人数

プロジェクト/団体プログラム名:
嵐電×地域×立命館 フジバカマプロジェクト

6名

<活動期間: 2026年10月28日～ 2026年12月12日 活動日数: 7日程度>

<活動日or 活動パターン>

■週1日程度 ※土曜2日程度

<主な活動場所>

衣笠キャンパス

<活動の流れ>

<キャンパスからの交通手段>

徒歩

日時	活動内容
10/28(水)	活動計画に関する意見交換
11/4(水)	活動計画にもとづく活動①
11/11(水)	活動計画にもとづく活動②
11/14(土)	草木染めイベント ※乾燥させたフジバカマを利用して布を染めます
11/25(水)	活動計画にもとづく活動③
12/2(水)	活動計画にもとづく活動④
12/12(土)	フジバカマ匂い袋づくりイベント ※草木染めで染めた布を活用したイベントを予定

<活動に必要な費用>

不要

<参加の姿勢>

地域連携・共創活動の一環として活動していますので地域住民の方々とも積極的に交流してください。

<コミュニケーションの手段>

■電子メール ■LINE ■電話

<活動のテーマと主な内容>

嵐電×地域×立命館で取り組む絶滅寸前種フジバカマ保全活動(嵐電沿線フジバカマプロジェクト)を知り、体験し、その輪を拡げる！

立命館大学では、2020年7月に京都市都市緑化協会から京都府の絶滅寸前種に指定されている原種のフジバカマ(藤袴:キク科 秋の七草で万葉集や源氏物語にも登場し古来より親しまれてきました。原種のフジバカマは京都府内では一時絶滅したと思われていたが1998年京都市西京区大原野で発見されました)50株を譲り受けました。2021年度からは、立命館大学の学生・教職員、地域住民、嵐電が連携して「嵐電沿線フジバカマプロジェクト」を立ち上げ、保全活動に取り組んできました。2021年度から5年連続して、中国・台湾と日本との間を約2,000kmも移動する渡り蝶「アサギマダラ」がフジバカマの蜜を吸いに衣笠キャンパスや連携して保全活動に取り組む近隣の学校などにも飛来しています。プロジェクトでは、原種のフジバカマを「挿し芽で増やす→植える→観察する→収穫する→上手に使う→芽が出る→挿し芽で増やす…」というサイクル(次頁の活動イメージ図を参照)で取り組んでいます。これらの活動を通じて、SDGsの目標15「生物多様性の阻止」を、目標17「パートナーシップ」で達成を目指しています。

<活動する現場で学生が求められる背景(理由)>

近年、京都市内にあるフジバカマ保全団体では、活動を支えるメンバーの高齢化など担い手不足から活動を縮小、中止せざるをえない事態が発生しています。嵐電沿線フジバカマプロジェクトでは、立命館大学の学生メンバーが先に示したサイクルにおいて、日々のフジバカマの世話からフジバカマの葉を活用した足湯や匂い袋づくりなどのイベント企画運営において重要な役割を担ってくれています。この点が、京都市内の他の保全団体との大きな違いとなっています。学生メンバーは、「保全活動の輪を拡げていく」という大きな課題に、PRキャラクター(フジバカマン)を活用したグッズ製作やSNSを利用した広報活動など柔軟な発想と行動力でチャレンジしてくれています。受講生の皆さんにも、嵐電沿線フジバカマプロジェクトの保全活動を知り、体験し、「輪を拡げていく」という課題と一緒に取り組んでいただきたいと思っています。

<学生が期待できる学び>

本授業に参加することで先ず「環境問題」に対する意識が高まります。さらに、幅広い年齢層の地域住民や企業(嵐電)と協働することで「実践的な課題解決力」や「多様な他者との協働力・対話力」を身につけることができ、自己肯定感を高めることに繋がります。

<活動紹介①>

フジバカマ保全活動サイクル イメージ



<活動紹介②>



嵐電御室仁和寺駅でのフジバカマ草木染めの様子①



嵐電御室仁和寺駅でのフジバカマ草木染めの様子②



嵐電御室仁和寺駅でのフジバカマ草木染めの様子③



嵐電御室仁和寺駅での草木染め 集合写真



フジバカマ匂い袋・しおりづくり@衣笠の様子



フジバカマ匂い袋・しおりづくりに取組む小学生



小学生をサポートする受講生たち



フジバカマ匂い袋・しおりづくり参加者 集合写真



衣笠キャンパスに飛来した渡り蝶アサギマダラ